

## 自分の意思の重要性

いよいよ高校入試です。皮切りは、私立高校の推薦入試。昨日は、私立推薦受験者たちが、試験前の最後の練習のために、志願して私のもとにやってきました。さすがトップバッターだけあります。どの生徒も礼儀正しく、受け答えも的確でした。推薦した私としては、自信をもって送り出せると確信しました。十月二十三日の校長メッセージに、「今の自分の力で面接試験に臨んでどうか」と書きました。受験だから特別の準備をするのではなく、普段身に付けた力で挑戦してみることに意味があると思ったからです。さらには、中学卒業をきっかけに、保護者の「教育を受けさせる義務」は消えるわけなので、これからは自分の意思で（進路を）切り開かなければならないと考えたからです。

自分の意思で進路を切り開くと言っても、生徒の皆さんにはピンと来ないかもしれませんね。進学しても経済的な支援は保護者がやってくださるでしょうし、学生であれば生活自体も今とそんなに大きく変わることはないでしょうから。過去にこんな生徒がいましたので、皆さんに紹介しますね。

その生徒は中学卒業後、服飾の専門学校に進学しました。通信制で高校卒の資格も取得できましたが、やはり学びの中心は服飾です。専門学校と通信制の授業料とで、費用もかなりかかります。一家を支えていたのは母親でしたので、その生徒はアルバイトを覚悟の上、自分の意思でその進路を選択しました。

当時の彼女の成績は、この辺りのどの高校でも十分通用するものでした。通知票は「5」か「4」ばかり。実力テストをやるといつも四〇〇点以上。だれもが疑うことなく、彼女は普通高校に進学するだろうと思っていました。

しかし、実際に彼女の目指したのは服飾の専門学校。しかも、高校進学より経済的な負担の大きい進路選択です。これまた、だれもが「なぜ？」と思いました。母親も「娘が行きたいなら」と後押ししました。ますます謎が深まりました。

「劇団Sの衣装係になりたい！」  
これが彼女の夢でした。その夢があったからこそ、彼女は中学卒業後自分の意思で、進路を選択したのです。専門学校在学中はかなり頑張っていると聞きました。私は異動となり、彼女のその後の情報は入らなくなりました。風のうわさでは、劇団Sではないが、ある劇団に入り、スタッフとして頑張っているということでした。

まだまだあなたには、周りが手を差し伸べてくれるでしょう。それに甘えて自分の意思を後回しにするときがあるでしょう。しかし、自分の意思の重要性は確実にあなたに迫ってきています。それを自覚するのが中学時代です。（一月二十七日 記）